

大学

【国際学部 国際学科】

ポジティブ意見

1. 学修の意欲と時間管理

アンケートによると、「高校生の時よりも勉強への意欲も高く、時間を有効活用して生活できている」といった声が寄せられました。このように、大学進学後に学習意欲が向上し、効率的な時間管理ができていることが読み取れます。

2. 出席と自己管理

「現在、全ての授業に出席していて良いと感じました。若干遅刻もあるけれど、出席率の単位は落とさないように頑張ったので前期毎日行くことができてよかったです」との意見からも、自己管理がしっかりできている学生が多い様子が伺えます。

ネガティブ意見

1. 学修の努力と課題

「もう少し課題や学習を根気強く行えばより良い結果が出るのだらうと思います」「努力がまだ足りてない」といった意見が多く、自己評価の厳しさが表れています。これらの意見からは、学生たちが現在の努力量について反省し、さらなる向上を目指していることが感じ取れます。

2. 自己理解と研究

「スキルがなんなのかよくわからなかった」「自分に何が足りないかどこを直せばいいか知る良い機会になったのでこれから改善できるよう頑張りたい」といった意見もあり、自己理解や自己評価の面での課題が浮き彫りとなっています。

【応用心理学部 臨床心理学科】

ポジティブ意見

1. 自分の成長と学習意欲の向上

学修を通じて自己向上心が高まったと感じる意見が多く見られました。「1年次と比較してみると、自己向上心は高まっていると考えられます。今では語学勉強に励むことが出来ているので3年次まで継続していきたい」という声もあり、学習意欲の継続が成長に繋がることを実感しています。

2. 学習の有用性と実践への応用

授業を通じて学んだことを実生活で実践することで、学習の有用性を再確認した意見もあります。「入学前は心理学について深く知らなかったため、これから学んでいくことに不安を抱いていたが、日常に溢れる心理的な現象を学ぶにつれとても興味を持つようになり普段の生活の中でも授業で学んだことを思い出し復習ができるほどまで成長ができた」という声がその一例です。

3. 将来への意識と目的設定

将来の目標設定に向けて学修行動を改善しようとする意識が高まったこと。「授業以外の予習、復習の時間をもっと取るべきだと思った」「将来に向けた学修をするように意識をして行動をしていかななくてはいけないと感じた」という意見が見られ、今後の展望を持つことがモチベーションの源になっています。

ネガティブ意見

1. 学修時間と予習復習の不足

多くの学生が学修時間や予習・復習の不足を痛感していることが明らかです。「ぼちぼち取り組んでいる反面、もう少し予習などを行う必要性も感じている」「普段の学修時間の少なさを痛感しました」など、学習時間の確保が課題となっています。

2. モチベーションと目標設定の迷い

学習意欲やモチベーションの維持が難しいとの声も多く、「やる気を引き出すのは難しい」「何の為に頑張っていたのか、頑張る理由が分からなくなりました」と具体的な目標を見つけられずに迷う学生が多いです。新しい頑張る理由を見つけたいという切実な声も寄せられています。

3. 専門性と理解の不足

専門知識や理解が十分でないことに対する不安も多く見られました。「専門的な知識はあまり身につけていないかもしれない」「全然心理学がわかってない気がするので、これから少しずつ理解ができるように頑張りたい」という意見があり、学修内容の深掘りが必要だと感じています。

【応用心理学部 健康・スポーツ心理学科】

ポジティブ意見

1. 学科や授業内容への適応・興味

多くのアンケート回答者が、自分が選んだ学科や授業内容に対する適性を感じており、興味を持って学んでいるようです。「思ったよりもこの学科に、自分は適正があるのかなと感じた」という意見や、「興味があることについては進んで学習できている」というコメントも見受けられます。こうした自信と適性への気づきは学修成果にポジティブな影響を与えています。

2. 自信の向上と将来への前向きな姿勢

多くの学生が自分の学修行動に対する自信を持つようになっており、「全体的にできている傾向なのでこの調子でもっと自信を持ってできると言い切れるようになりたい」という意見や、「将来の事を考え、実用的な知識やスキルを身に付ける事を優先することが大事だと考えた」という前向きな姿勢が見られます。このような姿勢が学修成果を向上させる動機となっています。

3. 自主的な学びの意識

学生たちは自主的な学びの重要性を認識しており、「もっと主体的に学習に取り組んで行くべきだと感じた」や「自分から主体的に学ぶことがおろそかになっていると気づいた」という意見が多く見られます。自主学習への気付きは、将来的な学修成果の向上にもつながる要素として重要です。

ネガティブ意見

1. 勉強時間と集中力の不足

「授業への出席は 100%だが授業外での勉強時間が全くない」といった勉強時間と集中力の不足に関する意見が多く見られます。「授業には出席しているがあまり集中できていない」といった意見もあり、学生たちは自身の勉強方法や時間管理に課題を感じています。

2. 自主性の欠如

多くの学生が「自主性が低いと感じた」や「自ら取り組んでいることがほとんどない」と自主性の欠如を自覚しており、「課題など決められたことと与えられたことは行っているが、自主的に勉強したりする意欲があまりない」と感じています。自主性の欠如は学修成果に対する自己評価の低さにつながっています。

3. バランスの難しさと環境の問題

一部の学生は「一人暮らしのため、アルバイトやその他との両立はかなり難しい」といった生活とのバランスの難しさを感じており、「大学内全部に WiFi 飛ばしてください」など環境に対する改善要望も出されています。こうした要因が学修成果に対する不満を引き起こしています。

【子ども学部 子ども学科】

ポジティブ意見

1. 学習意欲・行動の自己評価

多くの学生が自身の学びたいことを見つけており、具体的な目標を持っていることを評価しています。例えば、「以前も回答した気がするのですが、専門的知識やそれを資料にする力が身についたと自信をもって言えていることに気がつきました」という意見から、自分の学びに対する自信を持っていることがうかがえます。

2. 専門知識の習得

学生は専門知識をしっかりと身につけていると感じているようです。「4年間で、専門的な知識の習得に加えて社会人にとって必要なスキルを身につけることができた事に気づいた」と述べる学生もおり、大学での学びが実際のスキルアップにつながっていることを評価しています。

3. 自学自習の意識

多くの学生が予習や復習の重要性を認識しています。「知識理解を得るためには自分から積極的に予習をするべきだと感じた。バイトと両立が出来るようにしていきたい」との意見からも、自己学習の向上を目指していることがうかがえます。

ネガティブ意見

1. 時間管理の難しさ

多くの学生が学びの時間を確保するのに苦労していることを挙げています。「復習時間を作ろうとしても、バイトを始めてから時間が取れず、予習復習の時間やボランティアに参加する機会がなくなっている」と述べる意見から、時間管理の難しさが読み取れます。

2. 自己管理と学習効果

学生は自己管理が難しいと感じており、学習効果を最大限に引き出せていないとの意見が多いです。「授業への出席や課題提出を忘れないよう、自己管理を徹底していきたい」という意見は、自己管理の重要性を再認識する必要性を反映しています。

3. 幅広い学びへの挑戦不足

専門以外の知識に対する学習意欲の低さも見受けられます。「専門分野以外の勉強をあまりしていないと感じた」との意見から、幅広い知識を身につけるための意識が足りないと感じていることがわかります。

【経営学部 経営学科】

ポジティブ意見

1. 学習意欲

学生たちは、学びに対する積極的な姿勢を持っていることが確認されました。「就職活動に向けて、資格の取得のための勉強を進めていく必要があると考える」といった意見から、計画的に学習を進めようとする意識が高いことが伺えます。

2. 自己成長の実感

多くの学生が、自分自身の成果に対する自信を持っていることが分かりました。「自分が意外にがんばれていることに気づいた。遅刻をせずに行けている」といったフィードバックに示されているように、自身の小さな成長を認識している学生が多いです。

3. 授業内容の面白さ

経営学に対する興味が深まっている学生も見受けられました。「目指してた学部ではなかったけど、案外面白いなと思った」との意見から、柔軟に学習内容を楽しんでいる姿勢が窺えます。

ネガティブ意見

1. 学習時間不足

多くの学生が学習時間の不足を感じており、「学習時間が足りていないのかもしれない」と焦燥感を抱いています。これはアルバイトや自由時間の配分に対する自己管理の難しさが影響していると考えられます。

2. 専門知識の不足

学習成果に対する不安を抱えている学生も多く、「専門的知識・スキルを身につけることが出来ていない」といった声が多くありました。具体的な理解が不足していることから、さらなる学びが求められていると捉えられます。

3. 自己効力感の低下

自身の学習効果に対する評価が低く、「自分の理解が追いついていないと感じた」という意見も見られました。これは、授業内容の難しさや自分の能力への不安に起因していると考えられます。

短期大学

【幼児教育科】

ポジティブ意見

1. 専門知識の習得

多くの学生が、保育者になるための専門知識が着実に身につけてきていると感じています。例えば「入学する前より専門的な知識を身につけることができている」との意見があります。授業内容や実践活動が有益であり、自信を高める要素となっているとのこと。

2. 意欲的な取り組み

学生たちは予習復習を重視し、意欲的に取り組むことの重要性を理解しています。「予習などをしっかりとやり、期限など守れるようになりたい」、「授業の時間だけでなく、授業外学習にも意欲的に取り組みたいと思う」といった意見が確認できます。

3. 自分自身の成長実感

学生たちは自分自身が成長していることを実感しています。「この2年間を通して、専門知識を学習すると共に、社会人としての心構えも少しずつできてきていると感じました」といった意見も見られ、学習を通じた自己成長が報告されています。

ネガティブ意見

1. 予習復習の不足

多くの学生が予習復習を十分に行えていないと感じています。「日々の生活に追われて予習、復習を思った通りには行えていなかった」や「スマホを見ている時間が多く、あまり勉強する時間を確保できていない」などの意見が見受けられます。

2. 自身への自信不足

自分の能力や学習成果に自信を持っていない学生も多いです。「自信を持って答えたりすることが少なく、あまり意識をもてていないと思った」や「これから保育者になるためにもっと勉強しようと思いました」といった声があります。

3. 学習意識の向上が必要

自分の意見を伝えることが苦手だったり、意識の持続が難しいと感じる学生もいます。「他者の意見を聞きながら、自分自身の意見を述べることについては、まだ課題であると感じた」という指摘があり、社会で必要なスキルの習得が課題とされています。